

SUMAいるタイムズ

令和2年7月発刊

第2号



発行：須磨区医療介護サポートセンター

住所：〒654-0047

神戸市須磨区磯馴町6-1-4

須磨区医師会内

TEL: (078) 735-0041

Fax: (078) 735-0194

新センター長ご挨拶

須磨区医療介護サポートセンター センター長 白川勝朗



4月より、松井誠一郎会長の後任として、須磨区医療介護サポートセンター長を拝命いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で、直接ご挨拶することが出来ず、残念に思っています。医師会の担当理事としてサポートセンター開設時から関わってきましたが、センター長の重責が務まるかどうか不安も感じております。皆様のお役に立てるよう、コーディネーター、医師会の先生方と共に頑張る所存ですので、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

さて、緊急事態宣言は解除されたものの、生活は元通りにはならず、第2波以降の襲来も予想され、今後の業務に不安を感じておられる方も多いと思います。今回、「新型コロナウイルス感染症について思う事～医療と介護の現場から～」というテーマでご寄稿をお願いいたしました。皆様の知恵や経験を集約して、この困難を乗り越えていければ、と願っております。

須磨区医療介護サポートセンター 副センター長のご紹介

須磨区医師会副会長 小野 一広



コロナ騒ぎで、世間では「リモート」化が進んでいますが、私たちの医療・介護業界にあっては、ごく一部を除いて、人と人との関係性の上に仕事成り立ち、患者さんを中心に、各職種が協力・連携する事でその業務が完遂されます。今後、オンライン診療やICTがどんなに進歩しようとも、在宅医療、訪問看護、訪問介護は変わりようがありません。いや、この暖かい人間的な関係性の中に「機械」を介在させては、その持ち味が失われてしまうのではないかと考えています。

須磨区では、互いの職種や人格を尊重し合う気風のもとに、協力・連携体制がうまく形成されており、患者さんに安心と安全を提供できる体制が整っていると思います。この雰囲気や環境を、神戸全域に発信できるよう努力したいと思います。

これからも患者さんに、安全と安心を提供できるよう頑張ってお参りますので、よろしくお願いいたします。

須磨区医師会副会長 越智 深



前年に引き続き、担当させて頂いております。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療・介護の現場は一変し、防護具の不足にも関わらず、感染防御を徹底しなければいけない状況が長期に及んでいます。第1波が収束傾向の中、須磨区での医療・介護の現場での大きな感染拡大が起らなかったのは、関係される皆様の細心の注意と献身的な努力によるものかと思っています。

当センターの活動の多くも、長期にわたり中止せざるを得ませんでした。国の緊急事態宣言解除後、「新しい生活様式」に基づき、一部リモートも取り入れ、再開を目指しています。

懸念される、第2波以降の高齢者施設等での感染拡大時などにも備え、須磨区においても、関係者皆で、本誌を含め、様々なツールを用いての有用な情報・意識の共有を図り、知恵を出し合って、連携・協力体制のさらなる充実を図ることが望まれると思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

須磨区医師会副会長 寺下 一弥



副センター長を拝命しております寺下です。

新年度が始まりました。

今年は、見えない敵、新型コロナウイルス感染症 (covid19) に対する災禍で世界中が翻弄され、特に、医療介護を担うものにとっては、マスクなどの防護具が不十分な状況におかれ、自らが感染するかもしれないとの環境下での対応を求められています。この国難ともいえるべき災禍の中にあるからこそ「人の尊厳を大切に、誰もが安心して暮らせるよう医療介護を提供していく」という、基本的な理念に戻る事が肝要ではないかと思われます。

まだまだ、災禍は終わりの見えない状況ではありますが、みなさまが、健康で安心して暮らせるよう、この情報誌が役立つことを願っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症 について思う事

「～医療と 介護の現場から～」

新型コロナウイルス感染症の影響により、世界中が不安や恐怖と隣り合わせの日々を送る事になりました。そのような時、前線で奮闘していただいた専門職の方々の、「新型コロナウイルス感染症について思うところ」を伺いました。

ご協力いただきました皆様、お忙しい中、ありがとうございました。

正しい情報の発信者として

せせらぎ薬局
友金 香緒里さん

薬局でもコロナについて多くの質問をいただきました。

①「消毒薬はどれがいいの？」②「プールでうつるのか？」③「夏場の換気では、全開でクーラーをつけるのか？」など。

それぞれお答えすると、

①消毒用アルコールは76.9～81.4vol%を使用し（入手困難なため60%も認められています。）、次亜塩素酸ナトリウムは使用後水拭きする。次亜塩素酸水は今のところ推奨されていませんが、現在検討中です。

②水中感染は今のところ確認されていません。またプールでは有効な塩素濃度が保たれています。ただし、更衣室等で密が予想されるため今年度はプール授業が実施されない学校があります。

③換気は対角線上の窓を15センチ程度明けると効果的。

などなど。空中噴霧と謳った商品が、実は次亜塩素酸ナトリウムで子供の顔がかぶれた、と誤った商品の使い方被害もでています。TVやネットでさまざまな情報が飛び交っていますが、

こんな時こそ、薬剤師を活用してみては！ 消毒薬の濃度やウイルスの性質を正しく把握した薬剤師にお尋ねください。また、薬剤師は情報処理能力も長けています。国立感染症研究所など信頼できる情報源からデータに基づいた情報をお届けしますよ。



新型コロナウイルス感染症と向き合って、 今、感じていること

訪問看護ステーションすまあと
富寄 ゆかりさん



サージカルマスク、ゴーグル、ガウン、消毒液等の感染予防グッズは、一応常備してあるものの、このような爆発的流行かつ長期戦に耐えうる量ではありません。

「これからどうやって訪問したらよいのだろうか」「他はどう対応しているのだろうか」「もし、スタッフに感染者が出たら、ステーションはどうなるのだろうか」と毎日不安を募らせました。そういった状況で、一番の力になったのは、表に出てこない内容も含めた「生きた情報の共有」です。それらの情報を手がかりに、具体的な備品整備に努め、対応を検討しました。また、不安や焦りを感じているのは、自分だけではないという妙な安心感も「なんとかかなるだろう」という気持ちを後押ししてくれました。また、今回の感染症対策をめぐっては、それぞれが助け合う気持ちや、知恵を出し合い乗り切ろうといった一体感を強めてくれたように思います。フェースシールドを手作りしてくれたり、ホットシーラーを使い、ビニールをつなぎ合わせガウンを作成したり、色々な情報を集め共有したり、スタッフ一同で危機的状況を乗り切った感覚を味わいました。そして、第2、3波を乗り切るための大きな力になるだろうと期待しています。あわせて、看護のアセスメント力をフルに活用して、訪問の不安をできるだけ払拭し、ウイルス対策と向かい合っていく姿勢を大切にしたいと思っています。

コロナ禍で思ったこと

パナソニックエイジフリー神戸ケアマネジメント
佐野 眞美さん

令和2年4月7日に新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令され、兵庫県が緊急事態措置を実施すべき区域として公示されました。

それに伴い、担当させていただいているご利用者様の3割の方より、サービスの利用控えを希望する連絡をいただきました。通院先の医師や通所先の施設利用者の陽性反応に敏感になられたご利用者様、更には、ご家族様からのサービス利用自粛の申し入れもありました。

ご利用者様からは、「自宅でできることはしているから、心配しないで。」「コロナウイルスのニュースばかりで毎日観るのが辛い。」「もう、前のようにわいわいとお話できる場が制限されていくのかな。」「感染したら大変なことになるよね。どうしたらいい?」と、様々な声が挙がっていました。

しかし、そんな不安の中でも、ご利用者様とサービス事業者様との絆の深まりを感じられる出来事がありました。臨時的、緊急的な方法で、なんとかご利用者様を支えようとしてくださった現場の皆様は、お一人おひとりに電話をかけ、体調変化の有無や、様々な不安の訴えを、きちんと受け止め、安心できる生活へ近付けるよう声をかけてくださっていたのです。後日、ご家族様からも感謝の言葉をいただきました。

私たちケアマネジャーも、デイサービスやショートステイ等のサービスが利用できなくなことを想定し、代替えサービスを利用する対策を考えました。

同居の介護者からコロナ感染が出た場合は対応してもらえるのか…。心の中は、今もモヤモヤしたままです。

今回は特段の事情の適用で、「三密」回避のため、サービス担当者会議も、電話や文書照会で開催されることもあり、ご家族様から、通院も控えて薬も郵送で対応してもらえているので、なんとかオンライン診療が行えないかとの相談が何件かありました。

今回の件で、医師、家族、サービス事業者、ケアマネジャーがオンラインでやり取りできると、ご利用者さまにも安心が大きくなるのではと考えさせられました。

この度の新型コロナ感染拡大は、今後の介護保険サービスの全体像について深く考えきっかけとなりました。同時に、新型コロナウイルスとの戦いは道半ばであることから、医療現場の現状、各地域における支援活動、不足物資の支援、人手不足の問題等、今後の新型コロナウイルス対策の取組みについて情報を収集し、ご利用者様への支援に活かし、反映させていけるよう気合を入れていきます。

大変な日々は続きますが、乗り越える力があると信じて、日々、精進します。



新型コロナウイルス感染症について ～介護の現場から～

駒どり巡回サービス須磨南

徳山 聡美さん

困った事…いっぱい困ってました。

当訪問介護事業所にも、多少のマスクや消毒液はありますが、1000回/月に及ぶ訪問の度にマスクを破棄できる数はなく、「たったこれだけ…」啞然と見た棚の中のマスクや消毒液。スタッフやヘルパーが個人で備蓄している分に頼るのが現実でした。もちろん防護服などありません。手に入るとも思えません。「そういえば…」と、奥から疥癬の対応用に備えていた「ディスポセット」をスタッフが出してくれましたが、1セットではどうにもなりません。マスク、消毒液、シャワーキャップ、レインコート、靴カバーを求め、近隣を走り回り、あるだけ集めました。当初、マスクをされている利用者は少なく、手持ちのない方もおられました。マスクが手に入らない上に利用者にマスクを強要もできない。「あんたらがしてるからええやん」「うちにはないねん。あるんやったら買うてきて」と言われてしまいます。

あんしんすこやかセンターから利用者に布マスク（行政から支給された）配布の協力依頼がありましたが、スタッフには事業所への立ち入り自粛要請をし、リモートワークの実施もしていたので、配布方法については悩ましいところでしたが、冷静に考えると「郵送で送っても良かった」のではないかと気づきました。

一番困ったのが、利用者宅での検温です。体温計の無い家が本当に多く驚きました。事務所には体温計が2本しかなく、購入して頂くにも店頭にはありません。ネット販売では、どこの物かもわからない体温計が、法外な金額で出ていました。

「検温する事」を「こんなに世間で騒がれている」と話をしても、テレビを見ておられなかったり、認知症等の症状の為、検温していただく事が難しく、発熱の有無で、訪問活動をどのようにするか判断が必要でしたが、見た目での判断しか出来ない事もありました。独居で認知症の方の中には、発熱していても外出されていることもあります。

また、発熱されている利用者への訪問も、防護衣がないので、レインコートにシャワーキャップ、足カバー等の「防護服もどき」が必要になります。

「えっ！これ着て歩くの？」「終わったらどこで脱ぐの？玄関出たら…道狭いし」施設や病院のように更衣する所がなく、雨が降ろうが道路で着替ええないといけません。感染予防の為、格好に構ってはいられませんが、世間は、そんな私達に「どこの家？コロナ？？」と、疑心暗鬼の目を向けているように見えたりします。

次々利用者宅を訪問する為、私達が媒体にならない為にも手洗い等の準備が必要です。しかし、利用者の中には、手洗いの時間が待てない方もおられ、決められた通りに行うのが難しい現実がありました。

「私は大丈夫」「あんたらが（ウイルスを）持って来てるんでしょ。でも、来てもらわないと困るし！病気もってこんといてよ！」そんな雰囲気を感じ、在宅介護現場の苦悩が続きます。

これからの時期、利用者宅の限られた空間での入浴介助や、坂道を押す買物同行等も、マスクをしたまま行われなければなりません。空調や設備のある病院や施設の空間でなく、その方の暮らしてきた環境の中での、訪問介護としての対策を検討していかなければならないと思います。



サポートセンターでは...

サポートセンターでは、新型コロナウイルス感染拡大のため、2月20日の「多職種事例検討会」から、研修や会議を中止する事になりました。3月に入り、出来上がった「須磨区医療介護資源情報誌」を、各事業所様にお届けさせていただきました。その後、緊急事態宣言があり、感染防止対策として在宅勤務も行う事となりました。

サポートセンターへの相談は減少し、各事業所の方々の状況把握も出来ていない中で、3月後半に介護事業所にアンケートを実施させていただく事ができました。アンケートでは、色々な情報が飛び交い、マスクや消毒薬等の感染防止にかかわる物資の不足、感染が疑われる利用者や濃厚接触者への対応、職員を守るための行動や、事業継続についての判断など、答えのない不安に苦しんでおられる様子が伺えました。そのような中であっても、使命を果たすべく行動された皆様には、感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。ただ、災禍はまだ終わりでなく、次に備えていかなければなりません。私達サポートセンターも、是非、協力させていただきたいです。「こんな時どうする?」「他と連携したい」「情報が欲しい」など、何かお気づきの事がありましたら、お知らせください。解決に向けて、共に、頑張っていければと思います。

現在の取組み

- ・ 会議・研修の再開
⇒ リモート会議・研修を企画、検討中
詳しい方・ご興味のある方、お力をお貸しください!
- ・ 多職種間での連携ツールを検討中
- ・ 各事業所への訪問を再開すべく検討中

サポートセンターへのご意見・ご要望をお寄せください!

医療介護サポートセンターの
ホームページもご参照ください。

<https://kobe-iks.net>